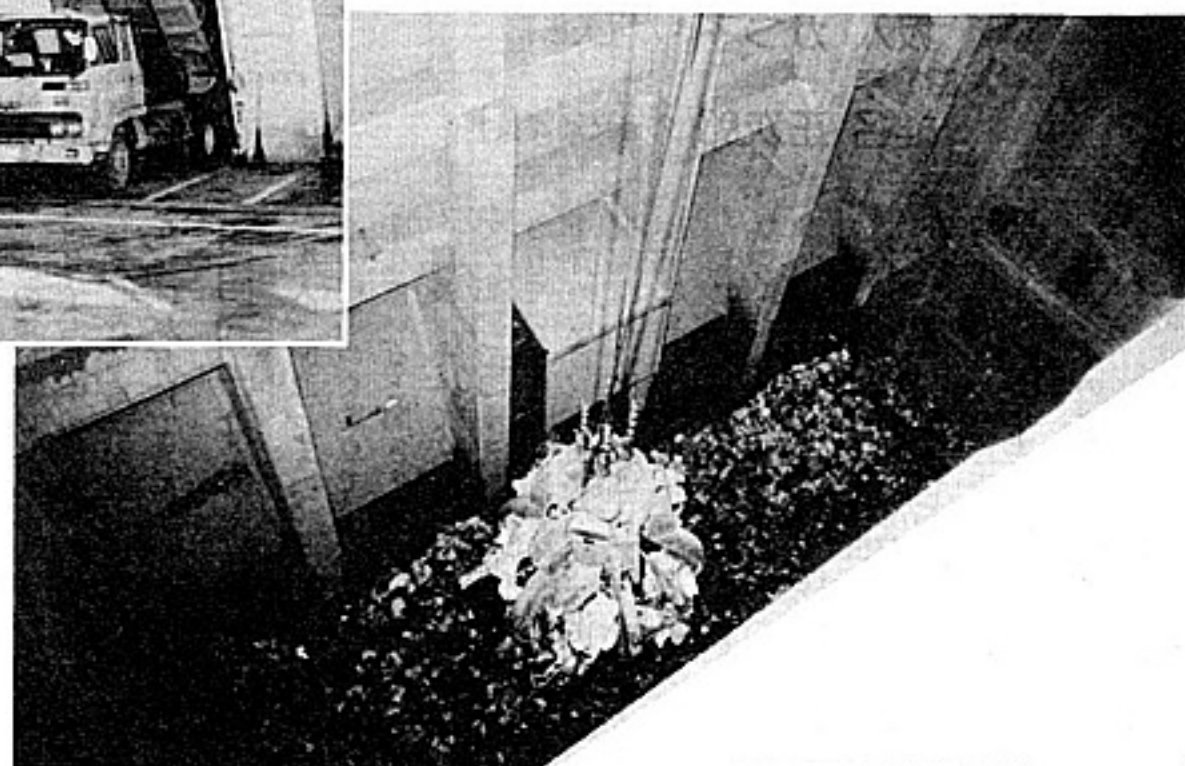


これが第二ごみ処理施設

本稼動は4月1日



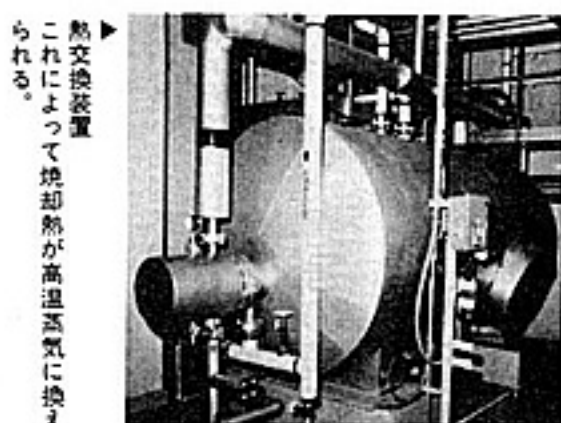
▲このごみ投入ステージには、五つの投入口がある。ピーク時(午前九時～十時)には一日の搬入量の半分が投入される。



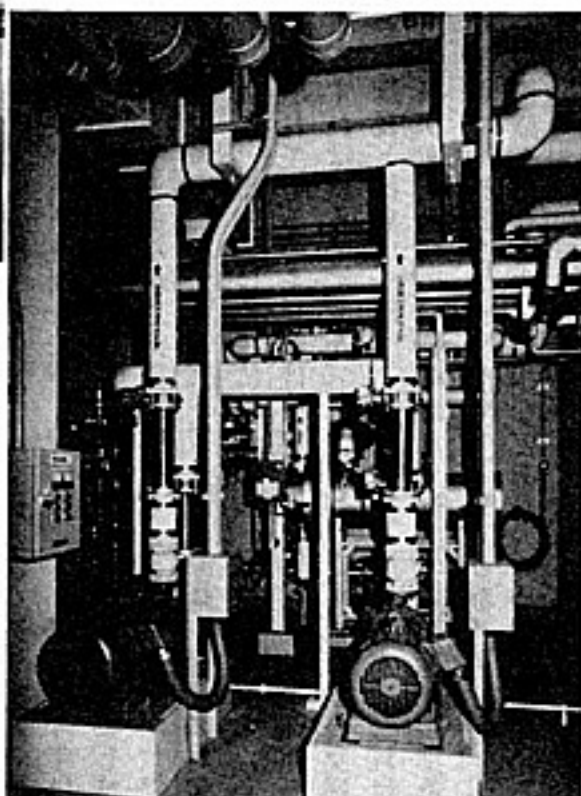
▲ごみが投入されるごみピット(槽)は深さが約25mある。2トントラックで500台分のごみを貯蔵することができる。ここからクレーンで炉へごみが投入される。



▲ごみ処理施設の内部には、このようなごみの燃え具合を監視する窓が数カ所ある。



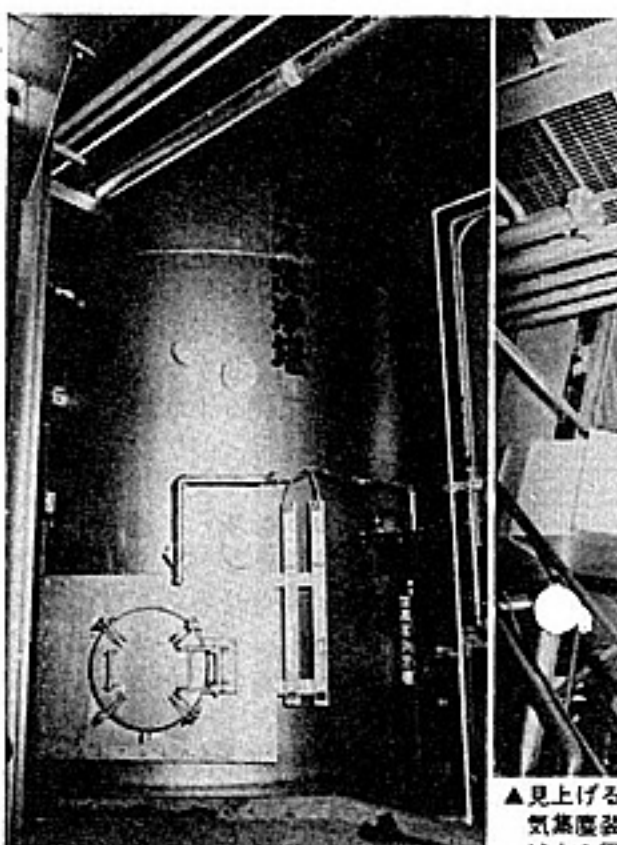
▲熱交換装置
これによって焼却熱が高温蒸気に換えられる。



▲約280℃の蒸気はこの加圧ポンプで各施設へパイプを通して送られる。各施設に到着したときでも約250℃はある。



▲ごみ焼却施設の各主要部をモニター装置で監視。ごみが投入される場所から灰ピット(槽)までに分場(吉川町)も監視することもできる。(注)スラに水冷して小石状にかためたもの。



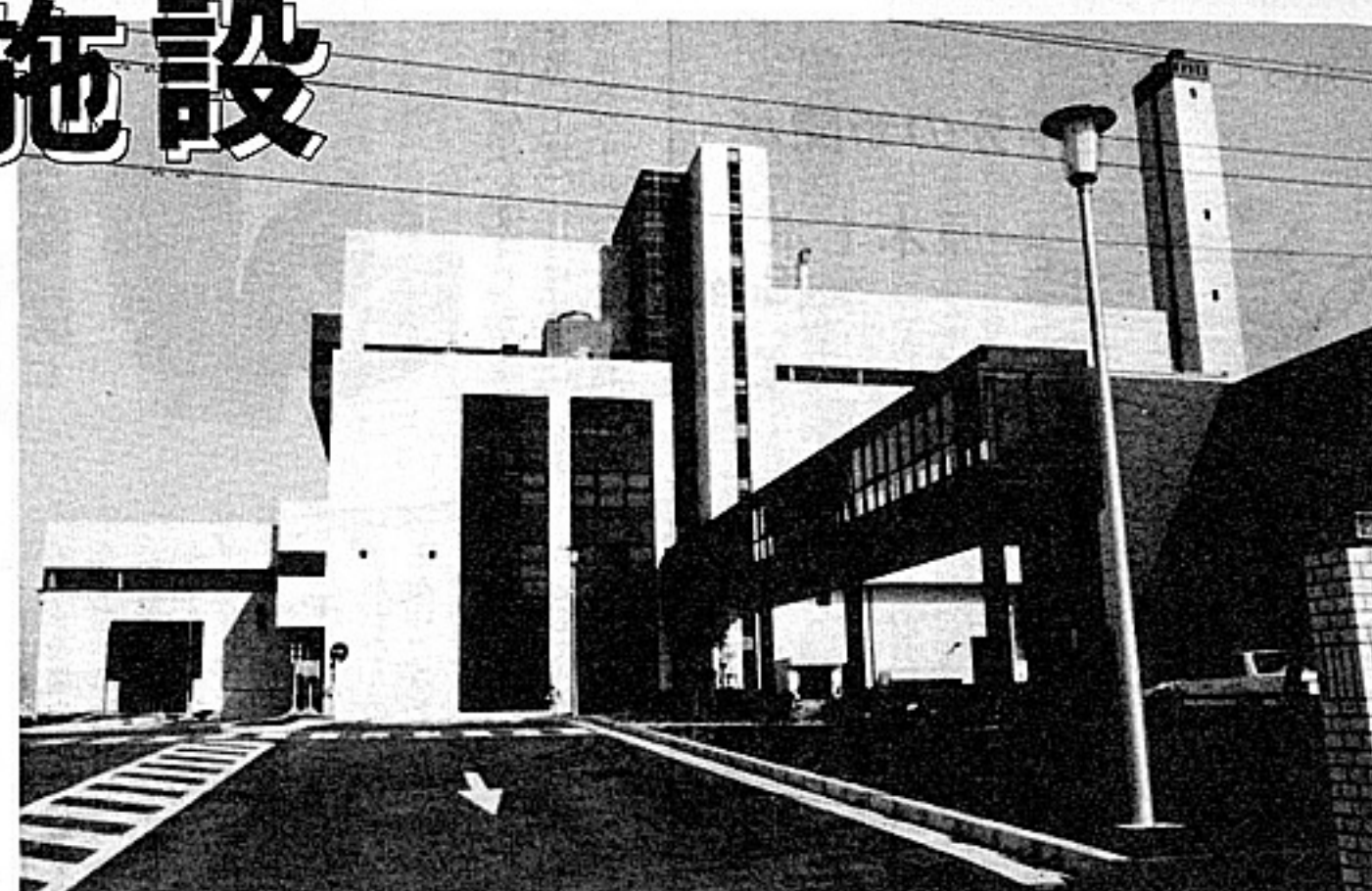
▲排ガス洗浄塔
右写真と同様、公害防止には万全を期している。



▲中央制御室
加え、(注)スラグが搬入される最終処分場(吉川町)も監視することもできる。(注)スラに水冷して小石状にかためたもの。



▲見上げる
気流を調整する装置。これで焼却時に出る焼却灰の量を調整する。



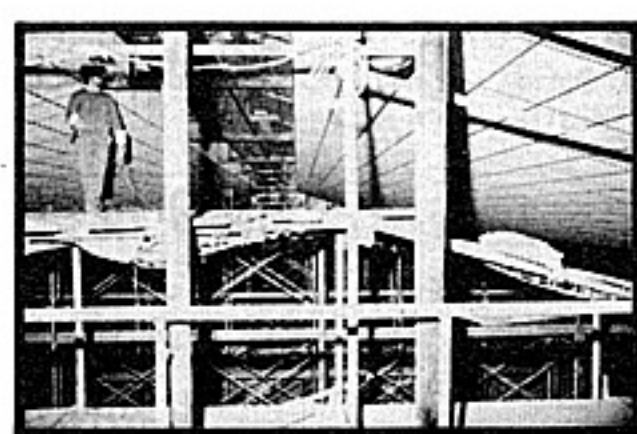
▲近代的な仕上げがされた第二ごみ処理施設の全景。手前は事務所に行くための通路。

コンパクト化された施設

八潮市の最北端に接する草加市柿木町に高くそびえる、地上五階地下一階、塔屋一階の建物(普通のビルの九階の高さに相当します)が埼玉県東部清掃組合第二工場(ごみ処理施設)です。この施設は、八潮市、越谷市、草加市、三郷市、吉川町、松伏町で構成している東部清掃組合が、最近の人口増加や生活水準の向上により、ゴミの廃棄量が増え続けていることを考慮し、ごみ処理能力の拡大を目的として、昭和五十七年九月に着工に踏み切ったものです。また、この施設の特徴でもある余熱利用設備により、四月中旬のオープンと五月のオープンとを予定している「市民温水プール」が高温蒸気の供給を受けます。

また、もう一つの余熱利用として、二五〇〇ワット時の蒸気発電も出来る。これは、このごみ処理施設と隣接のし尿処理施設を合わせた消費電力を賄い、なおかつ売電するほどの余剰が出る電力である。こんな具合で施設見学が終わり、四月に本稼動する東部清掃第二工場ごみ処理施設は、火入れ式(昨年十一月二十四日)が済み、本番当日に向けて点検作業も順調に進んでいる。

前面(南側)に立つと要塞のようになり、建物全体が一つの焼却炉になっている。この焼却炉は、ごみ処理施設を見学させてもらったが、それが何で、何がどこから入ってくるのか、どうして焼却炉で焼くのか、と聞いて、建物内をぐるりと指して「この建物全体が焼却炉だ」と考えてください。という答えが返ってくる。どうも各種の装置をコンパクトにまとめたために、そうならしめたらしい。肝心のごみはというと、建物の西側の「ごみピット(槽)」に投入されて、東側の「焼却炉」で焼く。約二時間の旅をする。その途中には、高効率のごみ焼却設備に加え、公害防止設備が完備されている。また、余熱利用が出来るように熱交換装置があり、ここから太いパイプで「すえひろ荘」と「市民温水プール」に約二五〇度の高温を保った蒸気が送られる。



▲市民温水プールの観覧室から
2階のプールを望む。まだ足場が組まれて分りずらいが、手前が子供用、奥が大人用のプールになる。

この施設の最終点検である灰ピット。この灰を本稼動までにスラグ状にして吉川町の最終処分場に搬入できるよう準備している。